

# Marijuana Anonymous

— マリファナ・アノニマス —



**newsletter vol.2**  
**2011.8**

**Marijuana Anonymous Japan**

---

<http://www.majapan.info>  
[majapan@hotmail.co.jp](mailto:majapan@hotmail.co.jp)



## マリファナ アノニマスとは…

マリファナ アノニマス (MA) は互いに自分の経験、強さ、希望を分かち合うことにより、共通した問題を解決し、他の人びとがマリファナ アディクションから回復するのをサポートできるようにと集まったフェローシップである。

メンバーとして要求されることはマリファナを止めたいと願う気持ちだけで、入会金、会費などは必要としません。MA はメンバーからの献金をもとにした自助グループで、宗教及びそれ以外のいかなる施設、組織とも関連することなく、MA 外部の論争、主義、運動などに対する意見を持つこともありません。MA の主要目的はマリファナを使わないでいること、そして、いまだ苦しむマリファナ アディクトが同様に自由を獲得するためのサポートを提供することにあります。これは、回復のため推奨されたMAの12ステップを実践することと、一つのグループとして12の伝統に従うことにより可能となるものです。

1986年から1987年にかけて、アメリカ西海岸でマリファナ アディクトのための12ステッププログラムがいくつか同時に始まり、その後間もなく、それらのグループが一同に集まり、マリファナ アノニマスが発足しました。それ以来20数年が経ちますが、現在ではイギリス地区も含め、MAワールドサービスでは全世界で17の地域をディストリクトとして認めています。

日本でも、マリファナが手軽に手に入るようになると同時に、マリファナ アディクションで人生が手に負えなくなってしまったアディクトが、日増しに増加しているように思われます。

2007年春、MAディストリクト6と7のメンバーが2人、日本を訪問することを機会に、日本のアディクトと一緒に日本初のMAミーティングを始めようという声を持ち上がり、東京、京都、宇都宮などいくつかの都市でMAミーティングが開催されました。マリファナ アディクションから回復されたい方、MAにご興味のある方、是非これを機会にMAミーティングにご参加ください。

## マリファナ アノニマス12の質問

マリファナが自分にとって問題となっているかどうかを判断するのに以下の質問が役に立つ。

1. ポット(マリファナ)を吸うのが楽しくなくなっているか？
2. 1人でハイになることがあるか？
3. マリファナなしの人生というのを想像できるか？それは難しいことか？
4. マリファナを吸うことをもとに、自分の友達が決まっていくか？
5. 自分の問題に直面するのを避けるためにマリファナを吸うか？
6. 自分の感情に対処するためにポットを吸うか？
7. マリファナを吸うことで、疎外された生活を送っているか？
8. 吸う回数を減らすとか、コントロールするとか約束してもそれを守れなかったことがあるか？
9. マリファナを使うことが自分の記憶、集中力、動機などの問題になったことがあるか？
10. 蓄えが少なくなってくると不安になったり、どうやってもっと手に入れるかを心配したりするか？
11. マリファナを使うことを中心に生活のスケジュールを立てているか？
12. マリファナを吸うことが対人関係に害を及ぼしていると、友達や身内の者から言われたことがあるか？

以上の質問に1つでもイエスという答えがあったとすれば、あなたにはマリファナが問題となっている可能性がある。



- Q: MAのメンバーシップがマリファナをやめるのにどのように役立つか？
- A: マリファナに対してコントロールがつかなくなったこと、人から嘆願されたり、堅い約束をしたにもかかわらず、マリファナが止められなかったこと…それがどういことなのか、MAのメンバーはよく分かっています。他の人をサポートする資格といたら、自分自身が使うのを止めたことくらいです。私たちができるのなら、あなたにもできるはずです！MAメンバーがお互いにサポートすることが、プログラム成功のバックボーンとなっています。
- Q: マリファナを止めるのになぜMAが必要なのですか？
- A: 必要だとは限りません。“マリファナ・アノニマスとは、お互いの経験・力強さ・希望を分かち合う男女のフェローシップで、それにより共通の問題を解決し、他の人もマリファナ・アディクションから回復できるようにサポートするグループです。“もし使用から乱用へ、乱用からアディクションへの境界線を越えていないのならば、恐らくいつでも自分の好きなきに止められることでしょう。マリファナ・アノニマスは、そのアディクションへの境界線を越えた人のため、そして“ノーというだけ”がもう自分のオプションでなくなった人のためのプログラムなのです。私たちが使わないているには、自分の意志だけでは十分ではありません。自分の問題をわかってくれる他のアディクトからのサポートが必要なのです。あなたがアディクトであるのなら、ここでサポートが提供されます。
- Q: MAミーティングに出席したら、何か約束をすることになりますか？
- A: それは全くありません。記録とかファイルもなく、話したくなければ、自分のことは何一つ話す必要はありません。戻って来たくないとしても、誰にもうるさく言われることはありません。
- Q: MAミーティングでは何をするのですか？
- A: マリファナで問題となったこと、回復するためにしてきたこと、そして現在はどんな人生になっているかといった内容の話をします。何度やっても自分一人ではうまく行かなかったのが、グループであれば、私たちにもゴールに達成できるということが分かりました。
- Q: MAで自分の知ってる人に会ったらどうなりますか？
- A: MAのメンバーは秘密性、匿名性を尊重します。ミーティング内で誰に会ったか、何を聞いたかは、外部には洩らされません。ミーティング内で自分の知ってる人に会ったとしても、その人はあなたと同じ理由で来ているのですから、あなたの匿名性は尊重されます。
- Q: MAは宗教機関ですか？
- A: いいえ違います。また他の宗教団体、宗派、政治団体、施設、それ以外の機関との関連も全くありません。

Q: もしマリファナに依存性がないとしたら、マリファナ・アディクトになりようがないのではありませんか？

A: “マリファナ・アディクトである私たちには、この質問に対する答えが分かっています。マリファナに人生をコントロールされ、他のことには全く興味をなくし、自分の夢は煙とともに消え去っていきました。このアディクションは進行性の病気で、アルコールも含め他のドラッグアディクションに走って行くことも良くあります。自分の生活、考え、希望でさえ、マリファナがその中心となり、マリファナを手に入れ、売買し、どうすればずっとハイでいられるか・・・そんなことばかり考えていました。”

今までの経験をもとにすると、MAでリカバリーを求める人は自分のことをマリファナ・アディクトと考えるのが一般的です。そのアディクションが心理的なもの、身体的なものなのか、または両方合わせたものなのかはそれほど重要ではありません。マリファナ使用に関しては、私たちは選択するパワーというものを失ってしまったのです。マリファナ・アディクトになっているかどうかは、あくまでその本人が決めることです。MAではマリファナそのものに対しては何一つ見解というものを持ちません。サポートを求めるアディクトに対し、リカバリーの手段を提供することがマリファナ・アノニマスの存在する唯一の理由です。

Q: 自分の子供（配偶者、友達、親など）にマリファナを止めるよう説得できる情報はもらえないですか？

A: MAの文献はほとんどウェブサイトに乗っており、MAのこと、プログラムの仕組みなどが説明されています。ただし、その文献を読んだだけでマリファナを止めるよう説得されることは恐らくないでしょう。強制されたり、うるさく言われたり、せつつかれてリカバリーに入ることはなく、本人が自らアディクトであること、マリファナに対し無力であることを認識するようにならないといけません。チャートやグラフを見せたり、パンフレットや本をいくら積んだところで、本人にそれを認める意志がない限り、問題があると説得することはできません。リカバリー・プログラムを成功させるには、やる気、心を閉ざさないこと、そして正直になることが大切なコンポーネントとなります。こういった欠かすことのできない特質というものは説得されて身につくものではなく、本人の内側から出てくるものなのです。

Q: 自分はマリファナ・アディクトなのか？

A: マリファナをコントロールして使うのが難しい、使っていない時でさえマリファナのことを考えている、自分自身または他の人に、ほどほどにするとか、止めるとか約束してもそれが守れない・・・などということがあれば、あなたはアディクトかも知れません。しかし、これは本人にしか決められない問題です。マリファナ・アノニマスのメンバーは誰も決めてくれません。

## マリファナ アノニマスメンバーのストーリー

アディクトのH、49歳です。MAにつながり、1年4ヶ月のクリーンタイムです。実際に、マリファナを吸ってない期間は平成13年の中旬位からですから、約8年位です。

MAにつながる以前は服役中で、当然その間は酒、タバコ、覚せい剤、そしてマリファナに女、はストップで、社会に復帰してからも、ハイヤーパワーと小生の頑張りで、クリーンを続けています。現在、満期出所後から今日まで、ある施設で入寮生活をさせてもらっています。そこでMAや他の自助グループのミーティングに毎日通うことで、今のクリーンがあるとも言えます。

マリファナとの出会いは、もう25年くらい前だったと思います。小生は、覚せい剤を18歳で覚え、その後にマリファナも覚えたのです。初めてマリファナを吸った時の事は、今でも鮮明に覚えています。何を見ても愉快で、頬の肉が上がりっぱなし。つまり、笑っぱなしで、音楽はとても良い響きで、耳に入って聞こえました。そして食べ物もおいしく、よく眠れました。ただし、喉がガラガラで渴きましたけど・・・。

今はタバコも、刑務所の延長線上で楽に止められています。実は、もしタバコを吸えば、マリファナや覚せい剤といった、「逆戻りのコース」を辿るのではないかと考えているからです。MAを通じて、12ステップを学んでいます。これも、マリファナを止め続ける道具として身に付けたいと思っています。

最近、テレビや新聞紙上で、大学生や若い人の間の大麻汚染のニュースや記事が報道されています。マリファナは、確実に次のドラッグへの通過点です。「私は大丈夫」と思っている人も、数年後にはアディクションへ進行します。このことは、様々なドラッグの世界に30年位関わり、自分自身と、ドラッグを使ってきた他のアディクト達の行く末を見ての感想です。これまでの経験をMAで話すことで、少しでも多くのマリファナアディクトへ、メッセージを運ぶことがらばと思っています。メッセージを伝えることで、自分自身のクリーンタイムを、1日づつ積み重ねていこうと思っています。

ありがとうございました。

# M a r i j u a n a A n o n y m o u s

## the story of members

私が大麻を吸いだしたのは高校2年生の秋でした。当時、オーストラリアに留学しており、そこは半ば合法化されていて地域によってはコーヒーショップ（大麻販売店）があり民家の庭では大麻が栽培されていました。そんな状況だったので大丈夫かなと思い手を出したのです。

初めて吸った大麻は大変かろやかな世界へと私を導いてくれました。以降、大麻にはまりホームステイ先の息子から大麻を買い続けました。しかし、その事が学校に発覚し、その学校が現地の学校ではなく日本人学校であったことから退学処分となりました。そして日本へ帰国です。

そんな酷い目にあったのですが、やはり大麻の味を忘れられなくて日本に帰国してからも友達やイラン人から買い続けました。そして、私の青春は大麻一色になり大麻を求めて世界中を旅するようになったのです。オランダに行きコーヒーショップを巡ったり東南アジアやインドの大麻スポットを旅しました。時には警察に見つかったりもしました。しかし、最初のオーストラリアと同じで海の向こうは大麻に対して寛容で怒られただけで持っていた大麻も返してくれました。そのあたりから大麻ユーザーによくある考えを持つようになりました。

それは簡潔に言えばこんな良い物でタバコや酒よりも害が無い大麻を規制している日本の法律は間違えているという事です。実際、自分は大麻を吸いながらも社会生活においてやるべき事はしっかりとこなしていたし、何の問題も抱えていませんでした。しかし、ある日、日本では非合法的な事から警察に捕まってしまったのです。けれども全く反省する事もなくこんな目に合わせるなら、もっと吸ってやろうと考え保釈されたその日から大麻を吸い続けました。そして、その後も日常生活に支障をきたす事も無く普通に学校に行ったり仕事もしていました。更に責任ある仕事も任されるようになり私の人生は前科なにするものぞといった感じでした。

所がある日の朝、警察によって2度目の逮捕をされてしまったのです。在宅

起訴だったので次も執行猶予で済むかなと思っていたのですがその考えは甘く懲役 10 か月の判決でした。そして、10 か月たち刑務所を出所し沖縄の施設へ行きました。ただそこへは親に強制的に入れられたという気持ちがあり、プログラムに専念出来ず半年ほどして貯めた金で航空券を買い東京へ帰りました。けれども親、親戚に突き放され行く所が無く仕方がないという気持ちで東京の施設に入寮です。そして、そこでまた金を貯めて施設を出ました。完全にプログラムを舐めてました。その結果、大麻を初め色々な薬を使いまくって仕事も住む所も金も無くなり半ばホームレス状態になってしまったのです。その時、本気でヤバいと思い NA へ行きワンデイを貰いました。今思えばあの時点が私の底つきだったのです。その時から薬がピタッと止まりました。そして、ドヤ暮らしの日雇いだったのですが一生懸命仕事をして部屋を借りるための資金を稼ぎだしました。これまでの人生において努力した事は何度もありましたがあの時ほど頑張った事はありません。何としてでも生き抜こう、負けてたまるかと誓った時の思いは私の薬を止め、とてつもないパワーを私に与えてくれました。

そして、順調にやっていく中で、ある時施設へ遊びに行ったら施設長からドヤ暮らしの日雇いまでして仕事をしたいなら、うちに帰ってきて就労に出ないかと提案されました。最初はまた寮生活かと、その話しを蹴ったのですがよくよく考えてみたら、今後大麻を初め色々な薬を使わないためにも、また目標としていた迅速な生活基盤の構築のためにもそっちの方が近道だということに気づきその話しを受けました。ただその時私は危ない人たちとトラブルを抱えていて身の危険があったため東京ではなく京都の施設で就労プログラムを行う事になったのです。

そして、京都に来てそこで MA に出会いました。実は前から MA の存在は知っていて行きたかったのですが東京や沖縄など地理的に離れた所に居たため行けず、やっとこれた事に本当に安心しました。そして、そこは、ほぼ大麻一本できた私にとっては本当の分かち合いが出来る場所で大麻ユーザーならではの悩み思いを聞く事が出来ます。今にして思えば沖縄、東京、京都ときた逃避行の道のりは全て MA へ繋げるためのハイパーパワーの導きだったような気が



します。今は毎週木曜日、MA へ行き皆で分かち合いをしています。人生の半分を大麻一色で過ごしてきた訳ですがやっとここへ到達させてくれたハイヤーパワーに感謝です。これからも仲間と共に歩み続けます。

KEEP COMING BACK IT WORKS

## M a r i j u a n a A n o n y m o u s the story of members

僕がマリファナを使い始め依存し始めた頃、一度目の全日制高校中退後アメリカへ行き大学内にある語学学校に留学していた頃です。当時を現在、思ってみたりしています。毎晩ジョイントを吸いビールを飲んだりしてどうしようもない生活を過ごしていた事に気が付きました。マリファナだけでは止まらず色々なドラッグをやりました。過去をゆっくりと考える事が出来る事に感謝しております。僕がMAに繋がり皆とミーティングを行い過去を語るその後、何とも心が落ち着き僕が居るなとふと考えて感じる時があります。これからも何とも落ち着く感じを強く感じて行けたらなと思う次第です。僕がMAに繋がったのはついこないだです。ですが、NAのクリーンタイムで数えておりますので2年少々の期間止めています。刑務所の服役期間やマリファナをしようして無い期間を考えてみますとかなりの長い間マリファナは吸ってません。10年位になるでしょうか、始めはマリファナから使いました。やがて他のドラッグだけで充分とか考えたが頭がイカれてきたか投げやりになったか。マリファナについての経験談、考えなど、他のドラッグを長く使用して服役までしてしまったせいか、どうしてもシャブ使用の話になりがちです。MAに繋がったおかげで仲間の中でマリファナに充点を置いた話をしていけます事が嬉しいのです。初心忘れべからずどんな気持ちからドラッグに依存して2度の服役までしてし

まったか？僕自身も難しくなります。又、現実ですが、信じられず底をついた為に投げたしたくなることもよくあります。精神状態や色々な事がゆっくりとMAに繋がる様になってからも回復しつつあります。今後も良い回復と平安の日々を迎えて頂きたいです。又、迎えたいです。ありがとうございました。

## **M a r i j u a n a A n o n y m o u s** the story of members

私がマリファナを吸い始めたのは高校生のときで、それから10年ほど、マリファナを毎日吸う生活を続けていました。周りの友人もほとんど全員が使っていたし、マリファナの無い生活などは考えもしませんでした。自分だけ使わないと取り残されていくような感覚で、もっと周りの友人よりも量を多く吸い、もっとハイでいることしか考えられませんでした。

私は25歳になってマリファナをやめる決意をするまで、毎週末クラブハウスでミュージシャンとして活動していました。その傍ら、マリファナの売人をしながら昼間の仕事をして生計を立てていました。

自分でも、どこかはぐれ者というか、そういう日陰にいるような状況に陶酔していた面もありました。

クラブで歌う自作の曲はほとんどが自分の生活や身の回りの出来事に関するものでしたが、自然とその内容はマリファナに関することが多くなっていました。それを聞いて賛同する人もまた多数で、「自分たちの歌っていることは間違いではないんだ」と信じきっていました。その半面で、日常生活ではマリファナに関するトラブルもだんだんと多くなっていきました。

それが原因で借金を重ね、愛する人も去っていき、一緒に音楽活動をしていた仲間からもだんだんと信頼を失っていき、そのたびにまた、マリファナをもっと上手に使って見返してやろうという気持ちも大きくなっていきました。

やがて私はマリファナに完全にコントロールされてしまい、何よりもマリファナを使うことを最優先するようになりました。自分でも薄々、「私は上手にマリ

ファナを使うことができないのかな」と気づいていました。でも、それをそれを認めることは同時に、マリファナと決別することだということも分かっていて、それが怖く、最後の最後まで否定し続けていました。最後にはマリファナの蓄えがなくなると、他のドラッグに手を出すようになり、ついに自分は真正銘のアディクトであることを認めざるをえませんでした。今まで信じていたものが、全て壊れていくような気分でした。

そして精神病院に通院するようになり、自分が大麻精神病であることがわかり、病院の先生や他の自助グループの仲間のすすめで、MAへと足を運ぶようになりました。私はMAに来て、どっと肩の荷がおりたような気がします。今まで自分が信じていたことと同じことを、仲間たちは信じていました。

わたしは今でも、リプラスをたびたび繰り返しています。それでも仲間たちは変わらず、私をいつも暖かく受け入れてくれます。私はMAで、新しく信じる何かを探し始めようとするのができたし、人生は何度でもやり直せるということを知りました。本当に感謝しています。

## Marijuana Anonymous the story of members

当時私はチューリッヒ郊外のキャンプ場で暮らしていた。

なんとか草公認の土地で暮らしていけるような様々な事をやった。路上で太鼓を叩いて小銭を稼いだり、親日家の紹介で、スイス南部の復古的なコミュニンで4ヶ月位働いていたが、田舎暮らしは性に合っていないくて、元教師のボスとうマが合わず、去った。

再びチューリッヒに帰ってきて、バックパッカーズの清潔なベッドで暮らしているうちは写真に凝って多少の名作?を大きく引き伸ばしてその裏に詩を書いて川べりで並べて悦に入ったりしていた。

それに飽きるとギター抱えて早朝のトラムで景色の流れるままアルペジオして

ご乗客の拍手を受けて得意になったりしていた。

草のもたらすインスピレーションのまま好き勝手な事をしていたのだ。

親父が死んで少々の遺産を母から引っ張ってカネの心配もしなかった。警察にパクられる心配も無かった。元々チューリッヒへ来たのも、パリの図書館でタイムズ誌に『チューリッヒでは身なりのよい紳士が通勤列車の中でジョイントをふかしていてもだれも気にかけない』という記事を見たからだった。

実際私も私服に職質にあったが、「キミはハシシをやっているね?」「はい」「職業は?」「詩人です」でパスポートだけ確認しておとがめなどはなし、そんな土地柄なのだった。しかしバックパッカーズのスタッフは私が長居することを嫌がった。

そんなわけでキャンプ場に行き着いたのだった。2ヶ月も居たろうか?悪夢の朝がやってきた。

前夜ウオッカをやり過ぎたのがいけなかったと思う。二日酔いの脳味噌には、いくら多量の草を吹き込んでも、いつもの魔法はやってこなかった。それきり、朝昼晩とスモークしても何もインスパイアされなくなってしまったのだ。

今なら、少し休めばいいのさ、とか考えるけれど、当時はただ目の前に横たわる生の現実はどう対処してよいのか分からず、テント暮らしがただ苦痛になった。

しかしユースホステルに泊まるような余裕もなく、知人から聞いたスクワット(違法占拠住宅)へ仲間入りするしかなかった。当然ジャンキーたちの巣のような無秩序な場所だった。でも中には才能ある若者もいて、我彼の差をひしひし感じた。人柄も良くずいぶん世話になった。

深夜には時々近所のスーパーのゴミ箱を漁りに行った。最初に行った時が大当たりで、2人でバックパックいっぱいチョコレートをせしめた。しかし大抵はせいぜい、うじ虫の大群に辟易して帰った。でもカチカチのパン位は手に入った。

草がほとんど効かないにもかかわらず、やりつづけていた。酒と一緒にやるのはいけないと解かりつつ、安ワインをリュックに入れて街を彷徨っていた。米と醤油をキープするだけで精一杯。野菜は裏の牧草地に生えている柔らかそう

な奴を炒めたりしていたが、そのエグ味はいまも思い出す。

一年ほど経って、十月ともなると寒さが身にしみるようになってきた。冷たい雨の日など、シュラフの中で震えながら“オレももう終りだな”としみじみ感じた。だけど「ここで死なれては困る。」と、ある仲間からクギをさされていた。裏山で首をくくる元気も無くなっていた。

朝、みんなが寝静まっているうちに一人起きてジョイントを巻き、ウィスキーをがぶ飲みすると体が空中にふわっと浮いて、すぐ横で寝ている奴らの気配もまるで気にならない、オレだけが黄泉の国へいざなわれるように…。ヤバイ！、こんな感覚はダメだ、それこそ生けるしかばね、廃人への入り口だとわかった時、やっと元へ戻らなければ、という帰巢本能が働いたのだと思う。オレは日本行き切符を買いに出かけた。大切な『作品』たちを物置に残して……

帰国してリタリンを経由して覚醒剤を覚えた。しかしシャブを突いて草を焚いても、いつでもハイになれた頃のような魔法は起こらなかった。

《草との蜜月はあっけないほど突然に終りがやってくる。》なんて事だ！ガンジャの神はどこ行った！

適正にやれば五感を高めるのも本当だ。しかしうまく使いつづける自信は私には無い。あの破綻の経験はブレーキの効かない私にとっては必要な経験だったと思う。

ただ、草を悪者にするつもりはない。草をやりながらアムステルダムからパリへ自転車旅行していた頃の私は最高にハッピーだったし、私の人生の宝物だ。そして私の場合は、特に音楽と視覚の感受性を高めてくれた事は間違いの無い事実だから。

街の音楽店で、Tracy Chapman のアルバムを試聴して涙するほど感動した私もういない、しかし音楽に集中できにくくなった今、シラフで聴くほど、そのバックグラウンドまで思いをはせる私は、彼女を深く鑑賞しているとも言える。

大麻の副作用はじわじわと私の記憶能力を落としていったし、反対派の人たち

はそれこそ脳化学的にいかにダメージを与えるかを語ってくれるだろう。子供達が大麻のとりこになるなんて親御さん達にとっては悪夢に違いない。

試してみるなら、しっかり人生の舵取りが出来てからでも遅くはないと思う。青年期に、合法の環境下で試してみて、重症にならないうちに帰国くらいがいいんじゃないかな、と私は思う。

個人主義の国で成功した大麻の自由化も、この日本では百年経っても変わらないだろうか？その現実にはただ As tears go by ただ涙するしかないのだろうか？

## Marijuana Anonymous the story of members

今夜で僕のソブラエティ（マリファナを使わないで生きる）が「1,277日と28分」になった。マリファナ（ほかの薬物も含む）を止める事がゴールじゃなくて、それが全ての始まりだった。薬物を止めてからが本当のスタートだった。ゾッとするけどそれが事実だった・・・。「ミーティングって何すか？アホくさっ無理無理！！」と靴ヒモを踏んづけジーンズの裾を引きずりながらソクサと帰った日もあれば、「こげんな物を毎日読んだり聞いたりするけんが、わしゃどどんおかしくなってくとよ・・・トホホ・・・」とブツブツ独り言を言いながら自助グループの文献やキータックをダンボールにまとめて一掃しようとした事もある。働けど働けど、畑を耕せど、待てど暮らせど、何も変わらん気がし、僕のハートは風前の灯。どんなに困難な日々が続こうとも今日の事は今日に置いていく・・・だからズバリ「今日を新たに」だったんだ。そんな目まぐるしい一日の反復にフラフラになった。仲間たちが側にいてくれたからやって来れたし、今日もやって行ける。

97年ごろは毎日を適当に生きていた。全てが惰性だった。幼少時代のうら寂しい家庭の残像が時々頭に浮かぶんだ。自営業の共働きで汚い狭い家がコン

プレックスだった。妹がいつも寂しそうだった。仲良くしたかったけど出来なかった。親や妹への甘え方が解らなかった。何やっても満たされない何かを抱えてた。学校や外で頻繁に問題を起こした。愛情確認だった。生徒指導部の先生にサリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて・・・」という小説を無理やり読まされた。まさしく当時の僕そのもので、親不孝通りでたむろする寂しがりやの強がりだった。

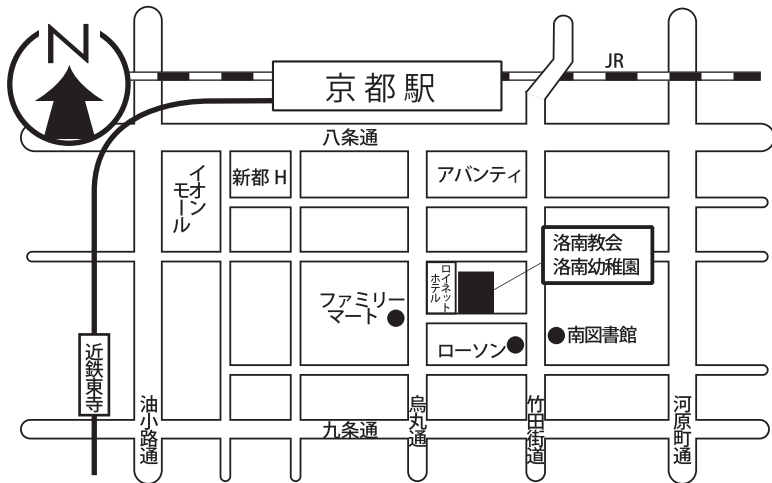
ペットボトルで作る自家製の水パイプで KEMURI を吸いまくった。埋まる埋まる、満たされない何かハッキリと埋まって行く。体操座りしてTVのCM観て泣いてた。ガンジャ吸いまくって感じられる「俺」という存在。アイデンティティの確立。一吸い目は必ず咳がでるまで……。これぞまさしく！！が、しかし、鑑別所に叩き込まれ、彼女に捨てられ、アルバイトのピザの配達では2度も事故を起こしバイトをクビになり、月1回の離れられん金貸し、それでもこの期に及んで「OK～余裕・・・！！」とか言っちゃう強がり。どうにもならなくて泣きたくなった。

若くして自助グループに登場してしまった僕が当時から言われ続けてきた事は・・・

「まだ若いんだから絶対底ついてないよ～もう一度存分に薬を使ってから来なよ～！！」だった。若い故に感じちゃう皆との距離。何だか溶け込めない雰囲気。(全て僕の問題ですが)が、しかしMAがあった。いつも門戸を開いてくれて完全自立で僕のホームグループになった。一緒に歩いてくれる仲間と信頼できるフェロー、僕の内側に感じる神を中心にシエゴを手放し俺を明け渡す。毎週日曜、太平洋を越え時差16時間のスポンサーシップ。

未だ路地裏で燻ぶってるタフな魂たちに・・・！！僕にあったチャンスがあなたの手にも・・・。

# M e e t i n g ★ G u i d e



毎週木曜日 19:00 ~ 20:00

洛南教会 京都市南区東九条北烏丸町 20

ミーティング等についてのお問い合わせ

[majapan@hotmail.co.jp](mailto:majapan@hotmail.co.jp)



Marijuana Anonymous

大

